



「ほうれんそう」できていますか？

副室長 進路担当 山崎 浩一

夏休みも明け、学校にも生徒たちの笑い声や元気な姿が戻ってきました。連日のように、体育館では交流文化祭に向けて、エイサー（沖縄の伝統芸能）の曲とパーランクー（手持ちの太鼓）の打音が鳴り響いています。私も一緒に練習することがあるのですが、生徒たちの踊りを覚える速さや動きには感心させられます。生徒たちは暑期中、本当によく頑張っています。どうぞ本番を楽しみにしててください。

分教室便りの第3号で、進路担当の立場から「求められる人材」と題して、挨拶や返事は基本中の基本ということと、5月時点での生徒たちの挨拶の様子を書かせていただきました。少しずつですが、自分から、「大きな声で」、「目を合わせて」挨拶のできる生徒が増えてきたと思います。

さて、今回のタイトルの「ほうれんそう」ですが、元はビジネス用語ですが、最近は色々な場面で耳にするようになり、ご存じの方も多いかと思います。「ほうれんそう」とは「報告」「連絡」「相談」のことです。簡単に言うと「報告」は上司や指示を出した人に結果や完了を伝えること、「連絡」はグループのメンバー等で情報を共有すること、「相談」はわからないことや困ったことをわかる人に聞くことです。ある企業の方は、わからない人同士で話し合うのは「相談」ではなく「雑談」とおっしゃっていました。分教室の生徒を見ていると、学年差、個人差はもちろんです。比較的「報告」や「連絡」はできていますが、帰宅連絡を忘れている生徒も数名いる状況です。先日、卒業生のアフターフォローに行った際も、「指示した業務の報告がないので、いつ終わったかわからない」「次の業務の指示が出せない」という話を聞きました。相手に伝わるように「報告」や「連絡」ができる力をつけてほしいと思います。

また、分教室生徒に限らず「困ったこと」や「わからないこと」を相談できない人が多いという話をよく耳にします。聞くことは勇気のいることかもしれませんが、恥ずかしいことでもなければ、叱られることでもありません。学校でも困り感をわざと作って聞けるような状況を作っていますが、相談することを習慣化してほしいと思います。ご家庭でも、頼んだことに対して「できた」などの報告ができているか、確認してみてください。



事業所見学について

①キャリアガイドブック等を参考に、見学したい事業所を決定する。

②連絡帳で担任に希望事業所の連絡をする。

③進路担当が事業所へ見学の旨を伝える。

④見学の可否を学校からご家庭へ連絡する。

⑤事業所との日程調整はご家庭で行う。